

## はじめに

ここに、2008年度の年報をお届けするにあたり、一言挨拶を申し上げます。

千葉県は成田国際空港と千葉港という日本の玄関を有しており、新型インフルエンザ、SARS、ウエストナイル熱などの輸入感染症の危険に常にさらされおり、それら感染症から県民を守ることは重要な業務です。

本研究所では、それら感染症はじめ、食中毒、医薬品、飲料水、毒劇物などの県民の健康危機に対応すべく、公衆衛生の科学的・技術的中核として活動しており、成果を上げてまいりました。

本年度は、感染症のみならず、中国冷凍ギョウザの農薬混入、粉ミルク事件、事故米など食の安全を揺るがす事件が発生しており、当研究所ではこれら検査を行うことにより、県民の安全を図ったところがあります。また、メタボリック健診（特定健診・特定保健指導）が開始されたところがありますが、当研究所では鴨川市の健診データを分析し、疫学調査を行うなど、生活習慣病対策にも寄与すべき調査研究を行っています。

さて、当施設は平成14年に耐震調査が行われ、早急に耐震対策が必要であることが指摘されており、新しい施設に建て替わるよう努力するとともに、更なる研究成果をあげたいと考えております。

科学技術はめざましい進歩を遂げています。今後もその進歩に対応できるよう、職員一同努力する所存です。

このたび、平成20年度の業務実績がまとまりました。当研究所の業績が行政の施策に生かされ、県民の健康の一助になれば幸いと存じます。

平成21年12月

千葉県衛生研究所長  
江口弘久